上条報告 Kamijo report

甲州市教育委員会
☎32 - 5076

第１１３号
平成 30 年 10 月

今号では、「みんなの畑」のダイコン種まきと上条集落見学会の様子について掲載しました。また、長野県の南木曽町妻籠宿についてご紹介します。
９月も中旬から朝晩はグッと冷え込む日が多くなってきました。季節の変わり目、体調など崩されませんよう、ご留意ください。

収穫祭に向けたダイコン種まき作業が行われました！

１１月４日（日）の収穫祭に向けて、上条を活性化する会により９月１６日（日）にダイコンの種まきが行われました。　今年も豊作でありますように！

第 21 回上条集落見学会を行いました！

上条集落見学会は、上条が重要伝統的建造物群保存地区に選定された平成 27 年から隔月で開催しており、今回で 21 回目です。９月１６日（日）の 10 時から 12 時までの約２時間をかけて、上条集落をじっくりとご案内しました。

見学ルートは、福蔵院をスタートし、金井加里神社を通り集落へ。観音堂を見て集落内を散策して終了です。

この見学会では、お寺や地域のご厚意により貴重な仏像などを拝観することができます。福蔵院では、不動明王立像と木造百体仏（木食白道作）、観音堂では木造百観音像（木食白道作）を拝みました。点在する石造物や集落構成を散策しながら解説することで、集落の成り立ちや歴史について楽しく知っていただくことができました。

シリーズ・他の伝建地区を知ろう　～南木曽町妻籠宿（長野県）～

今回ご紹介する伝建地区は、長野県南木曽町にある妻籠宿（つまごじゅく）です。

妻籠宿は、江戸時代に中山道の宿場町として栄えた地区で、道を挟んで両脇に建物が並ぶ景観が特徴的です。観光地として有名で、海外からの観光客も多く訪れます。重伝建への選定第一号のひとつであり、まち並み保存活動のパイオニアです。

妻籠宿は、重伝建の選定を受ける以前の昭和 30 年代からまち並み保存の取組みが行われています。その当時は、戦後の高度経済成長期で、古いものが壊され、新しいものがどんどん作られる時代。現在の「歴史あるまち並みを保存しよう」という概念がほとんど浸透していない状況で、妻籠宿はまち並み保存をはじめました。

当初は周りの理解を得られず苦労されたそうですが、宿場の歴史的建造物や地域の歴史を生かして観光地として整備していく方向性を町としても打ち出し、だんだんと理解者も増え、最盛期で９万人、現在でも国内外より年間４万人ほどの観光客が訪れる場所になっています。

「公益財団法人 妻籠宿を愛する会」や「妻籠宿案内人の会」などの団体があり、地区内の整備や観光客の対応をしています。愛する会では、地区内の様々な調整的な役割があるほか、環境保全（除草など）や文化広報（広報誌発行）などの業務を行っています。また、冬季講座として様々な分野（まち並み保存、歴史、経済、教育、動植物など）より講師を招き勉強会を毎年実施しているそうです。

シリーズ・白道　　～木食白道 の生涯～

上条の観音堂に安置されている「木造百観音像」（市指定）の制作者である木食白道（もくじきびゃくどう）についてご紹介します。

＜生誕～師 行道と出会い＞

白道は、宝暦５年（1755）に現在の塩山上萩原に生まれ、７歳で父親と共に回国の旅に出る。旅の途中、伊予の宇和島で父親が病死、14 歳まで農業などをして暮らす。その後、出家して戒行すれば名をなすという神託をうけ、四国霊場廻りで回国を再開。17 歳で四国をあとにし､23 歳になるまでの６年間で九州から本州をくまなく巡り、安永２年（1773）に伊豆で師となる木喰行道（もくじきぎょうどう・身延町丸畑出身）に出会う。

＜蝦夷の地で＞

白道 24 歳のとき、行道とともに北海道に至る。仏像の彫刻はこの地で始まった。２年間を北海道で過ごし、青森、秋田、山形、福島、栃木、群馬、長野を経て、27 歳のときに郷里に帰ってくる。

＜郷里にて＞

郷里の法幢院（塩山上萩原）で病気を治すまじないを行ったり、人々の求めに応じて仏像を彫ったりしていたが、これが評判を呼び境内には１千人が集まったといい、付近には出店が立ち並び歌舞伎興行までが催されるほど大変な賑わいだった。このころ、上条の木造百観音像や福蔵院の百体仏、上原の子安地蔵像、赤尾の子安地蔵像など市内に残る大作が造像された。

木造百観音像（市指定文化財）